

漏えい機器・超大型機器等に関する課題及び対策について(案)

- ・ PCBが外部に付着した漏えい機器や超大型機器等については、保管場所からの搬出が困難である、通常のJESCOの工程では処理が困難又は処理効率が悪い等の理由から、これまで処理が順調に進んでいない。
- ・ こうした機器等のうち、保管場所での対応や収集運搬、処理に関し技術の開発が必要なものについては、国、保管事業者、JESCO、製造者等が、その責任・責務に応じた役割分担の下に、協力して技術開発に取り組む必要がある。
- ・ JESCOは、これらの機器の受入が可能となるよう、必要な工程の改良等を行う必要がある。
- ・ 保管事業者は、これらの機器について、抜油、付属品の取り外し等の必要な措置を講ずる必要がある。
- ・ 具体的には、以下のように取り組む。

	現状・課題	対策
漏えい機器	<ul style="list-style-type: none"> ・ トランス・コンデンサの缶体から、PCBがにじみでているもの、PCBが漏れて保管容器にたまっているものがある。 ・ 作業環境の悪化が生じるため、そのままではJESCO施設に搬入し処理することができない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ にじみのある機器については、保管現場において保管事業者が補修を実施する。 ・ 液漏れのある機器については、収集運搬体制の確立が必要であり、都道府県市は収集運搬業者に指導等を行う。 ・ 収集運搬業者における密閉型運搬容器の整備を進める。 ・ 液漏れのある機器の適切な受入、処理を行うため、JESCOにおける設備改造を進める。
超大型トランス等	<ul style="list-style-type: none"> ・ 機器の寸法・重量等の制約から保管場所からの搬出、JESCOへの搬入が困難なトランスがある。 ・ 保管事業場における抜油、部品取り外し作業により技術的に搬出可能なものと、このような作業をしても搬出不可能なものがある。 ・ 車載トランスは、内部構造の複雑性等により、洗浄工程で当初想定の数倍の時間が必要となっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 超大型トランス等のうち、現地での抜油、付属品の取外しにより搬出が可能なものについては、保管事業者は、この方法による対応を推進する。 ・ 搬出技術が確立していない超大型トランス等については、保管事業者、JESCO、製造者が協力して、現地での解体等の技術開発を進め、実用化を図る。 ・ 車載トランスその他の機器についても、効果が見込まれるものについて同様の措置を講じる。